



補助金モデルの評価(概要)(2018-19)

背景:

未来の夢計画の終了時、ロータリー財団管理委員会は、新モデルの全世界導入の3年後、およびその後3年ごとに補助金モデルの包括的な評価を実施することを承認しました。この評価は、新モデルに対するロータリアンの満足度、6つの重点分野に対する同意の度合いと理解度、グローバル補助金プロジェクトの持続可能性を測ることを目的としています。また、この評価により、新補助金モデルの試験期間と全世界導入後の最初の数年間に生じた問題を確認することができます。

今回の評価は、ロータリー財団専門家グループと事務局職員により実施されました。専門家グループの協力により、今回初めて、外部コンサルタントを起用せずに補助金評価が行われました。

評価には、128カ国を代表する2,800人近い人からの回答が含まれています。さまざまな形でロータリー補助金にかかわる138人のロータリアンから意見を聞くために、全世界でフォーカスグループ(座談会調査)が実施されました。これに加え、プロジェクトの持続可能性を調べるために専門家グループのメンバーが59の実施地を訪問し、プロジェクト受益者からのフィードバックを集めるために38の実施地を訪れました。

アンケート調査とフォーカスグループによる質的・量的データの収集は、2018年7月に開始されました。また、持続可能性を調べるための現地訪問は、2016-17年度、2017-18年度、および2018-19年度の前期に実施されました。可能な場合には、2015-16年度補助金モデル評価の結果と比較するためのデータも収集されました。

今回の評価における調査項目は下記の通りです:

- 補助金モデルに対するロータリアンの満足度
- 6つの重点分野に対するロータリアンの同意の度合い
- 重点分野の要件に対するロータリアンの理解度
- 重点分野におけるグローバル補助金プロジェクトの持続可能性(受益者からのフィードバックを含む)

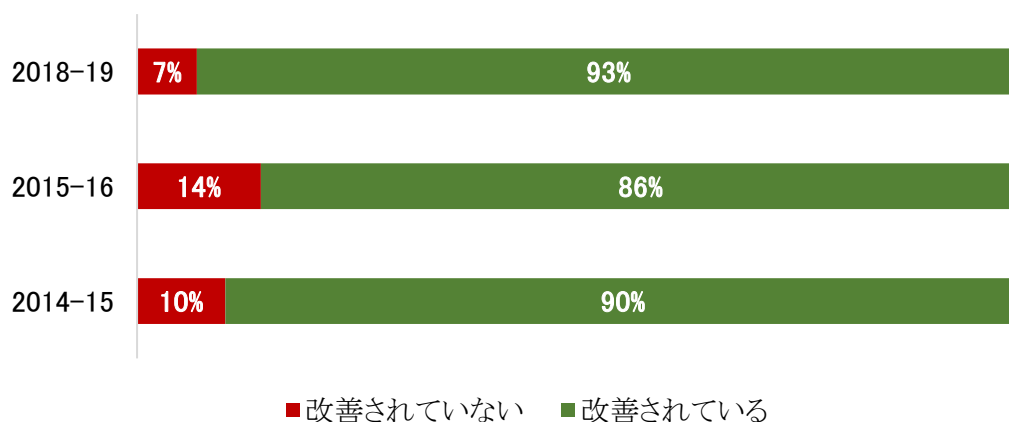
補助金モデルの評価結果は、重点分野検討委員会(2019年3月)およびプログラム委員会と管理委員会(2019年4月)に提出されました。

主な結果

ロータリアンの満足度

- 承認されたグローバル補助金の数は、その創設以来、50パーセント増えました。また、グローバル補助金の平均授与額は21パーセント増加し、地区補助金の平均授与額は16パーセント増加しました。
- グローバル補助金で最も多かった重点分野は、「疾病予防と治療」です。
- 調査に回答したグローバル補助金提唱者の93パーセントが、「現在の補助金モデルは、以前のモデルよりも改善された」という文章について「そう思う」と答えました。これは、ロータリアンの満足度が、未来の夢試験段階中のレベルにまで高まったことを示しています。2013-14年度に補助金モデルが開始された当時には多くのロータリアンが楽観的でしたが、新モデルに慣れるまでの最初の数年間には満足度が若干下がりました。しかし、活用開始から数年が経った現在、現補助金モデルへのロータリアンの満足度は当初のレベルにまで回復しています。

現在の補助金モデルは以前の補助金モデルよりも
改善されている

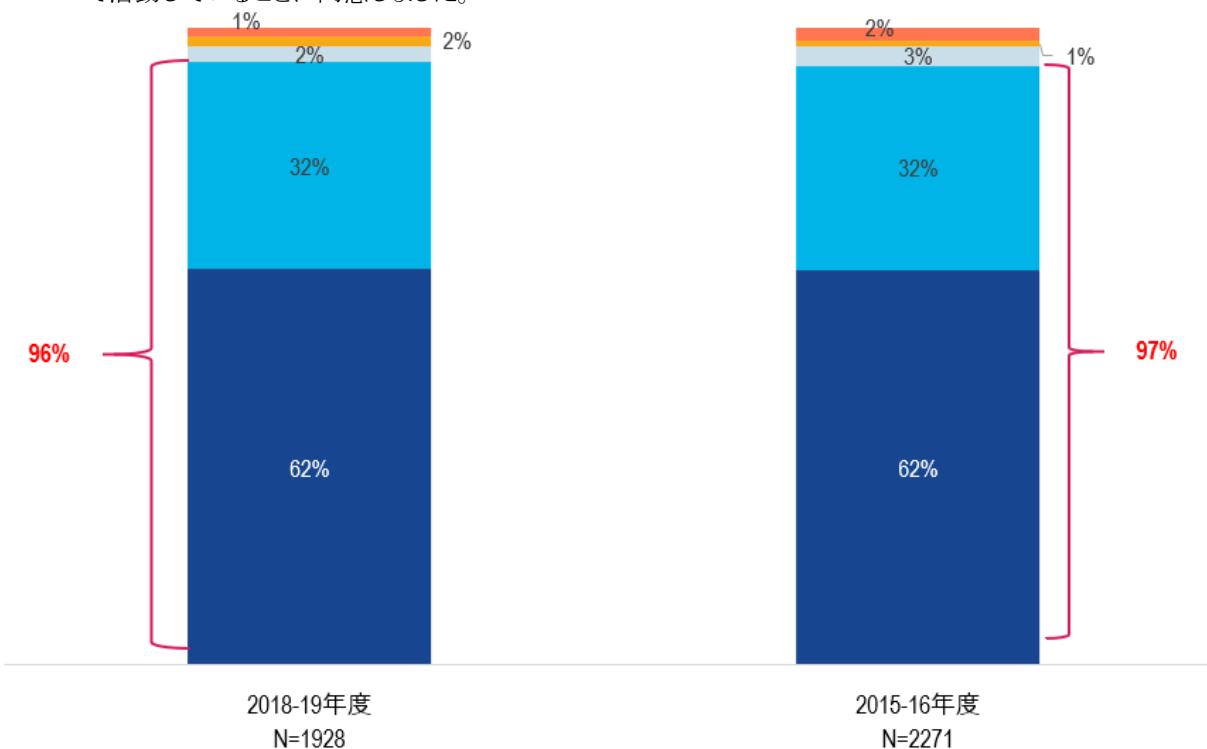


持続可能性

- 評価では、受益者のために持続可能な成果を生むグローバル補助金プロジェクトの可能性についても調査しました。
- 調査に回答した補助金提唱者の73パーセントが、プロジェクトの持続可能性についてロータリーが周知を図ることが非常に重要だと感じていました。
- 調査に回答した補助金提唱者の62パーセントが、持続可能性の要件を満たす準備が十分に整っていると感じ、60パーセントはこれらの要件は明確であると回答しました。しかし、持続可能性の要素をプロジェクトの計画に盛り込むのが容易だと感じているのは、わずか29パーセントでした。

重点分野

- 調査に回答したグローバル補助金補助金提唱者の96パーセントは、ロータリーが正しい重点分野に沿って活動していることに同意しました。



- 分からない/意見なし
- ロータリーは間違った重点分野に沿って活動している
- 正しい重点分野だと思うが、もっと狭義に定義するべき
- 正しい重点分野だと思うが、もっと広義に定義するべき
- ロータリーは正しい重点分野に沿って活動している

- そのうち、32パーセントは重点分野をより広義に定義するべきだと感じており、2パーセントはより狭義に定義するべきだと感じていました。
- 重点分野の一つとして環境を追加することについては直接調査が行われませんでした。アンケート調査とフォーカスグループから得られたフィードバックにより、特にローターアクターと学友の間で、環境に対する関心が高いことが明らかになりました。

モニタリングと評価

- ロータリアンの多くは、プロジェクト実施におけるモニタリングと評価の重要性を理解している一方で、これを実際に取り入れるのは困難であると感じています。
- レベルII(国際財団活動資金からの上乗せが50,000ドルを超える補助金)とレベルIII(国際財団活動資金からの上乗せが100,000ドルを超える補助金)のプロジェクトにおけるモニタリングと評価システムについて、専門家グループは、役立つ形でモニタリングと評価を行わなければプロジェクトを成功させる能力が損なわれるという所見を示しました。

基本的教育と識字率向上

- 「基本的教育と識字率向上」は、ロータリアン、ローターアクター、学友、ノン・ロータリアンが優先的に支援している分野となっています。
- 「基本的教育と識字率向上」における持続可能性のスコアは、全重点分野で最低でした。これは、テクノロジー、研修、設備の購入に大きく焦点が当てられたことが要因であると考えられます。

疾病予防と治療

- 「疾病予防と治療」の分野で最も多くのグローバル補助金が承認されており、毎年の授与総額も最高となっています。
- 「疾病予防と治療」の分野には、ほかのどの分野よりも多くのロータリアン行動グループが存在しており、この分野に対するロータリアンの関心がグローバル補助金の枠を超えていることが分かります。

経済と地域社会の発展(現在の名称「地域社会の経済発展」)

- 地域社会の経済発展は、ロータリアン、ローターアクター、ノンロータリアンによる支援への関心が2番目に高い分野でした。
- 地域社会の経済発展プロジェクトにおける持続可能性のスコアは、2015-16年度よりも若干高まり、全補助金の全体平均を上回っています。

母子の健康

- 「母子の健康」における活動の目標と指標は、ロータリアンにとって明確で分かりやすく、補助金の受領資格を満たすプロジェクトの立案方法をロータリアンは理解しています。
- 「母子の健康」は、職業研修チーム活動の大きな部分を占めており、その割合はほかの重点分野よりも高くなっています。

平和と紛争予防／紛争解決(現在の名称「平和構築と紛争予防」)

- 「平和構築と紛争予防」は、補助金の活用という点では最も低くなっています。この活動の大部分は奨学金が占めています。
- 調査データから、多くのロータリアンにとって、平和構築と紛争予防のプロジェクトを立案・実施する方法が不明瞭であることが示されています。

水と衛生

- 補助金での活動内容を見ると、ロータリアンは、水の供給や「WASH in Schools」(学校での水プロジェクト)といった特定の種類のプロジェクトを得意としていることが分かります。

- モニタリングの中間報告(プロジェクト実施中の専門家グループによる現地視察など)によると、水供給の要素を含むプロジェクトは、持続可能性の向上につながっていることが示されています。

職業研修チーム

- 調査回答者は、職業研修チームの立案(93パーセント)および重点分野との一致(92パーセント)において問題はないと答えています。
- 回答者の70パーセントは、職業研修チームを編成するのは「簡単」または「やや簡単」と答えています。また、66パーセントは、受入地域のニーズに合わせて計画を立てるのは「簡単」または「やや簡単」と答えています。これらの数字は、2015-16年度の結果よりも大きく上昇しています。

対策

- 管理委員会は、既存の6つの重点分野を維持することを承認しました。
- [重点分野の基本方針](#)が改訂され、ほとんどの分野に環境保全を目的とするプロジェクトが盛り込まれました。
- 管理委員会は、補助金モデルの評価を今後は5年ごとに実施し、その間に財団プログラム委員会が中間報告を行うことに同意しました。新しい評価周期の初年度には、調査・評価担当チームが質問項目を作成し、評価の手法に調整や変更を加えることとなります。